

パブリックコメントに提出された意見とその意見に対する市の考え方

計画等の名称	龍ヶ崎市都市計画マスタープラン		
意見提出期間	令和7年1月6日（月）～令和7年2月4日（火）		
意見提出者数	5名（個人4名、団体1名）	意見の件数	23件

意見番号	提出者番号	パブリックコメント	市の考え方
1	1	<p>【40 ページ】</p> <p>「すべての人にやさしい住まいと地域がある都市づくり」において、良好な住環境を形成するため、資源回収を行うリサイクルセンターを設置してはいかがでしょうか。</p>	<p>第3章：目標別構想の目標1【すべての人にやさしい住まいと地域がある都市づくり】において、方針として、①良好な住環境の形成や⑤衛生的で快適な暮らしを支える生活環境施設の整備を掲げております。そのうえで、個別・具体的な施策等につきましては関連計画となります「龍ヶ崎市ごみ処理基本計画・実施計画」や市の附属機関となります「龍ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会」等において議論されるものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。</p>
2		<p>【48 ページ】</p> <p>「地域資源を活かしたにぎわいと多様な働く場がある都市づくり」において、防衛省陸上自衛隊の分屯地を誘致してはいかがでしょうか。これにより、3,000人規模の自衛官の移動が見込まれるほか、広報施設や博物館を併設すれば、集客が見込まれるものと思います。</p>	<p>第3章：目標別構想の目標3【地域資源を活かしたにぎわいと多様な働く場がある都市づくり】において、にぎわいづくりや新たな産業立地を課題としています。ご提案いただきました、陸上自衛隊、分屯地の立地につきましては、防衛省関連施設の設置・配置となりますので、国の防衛力整備等において検討されるべきものと考えております。</p>
3		<p>【54 ページ】</p> <p>「誰もが快適に移動できる都市づくり」において、コミュニティバスにデュアルモードビークル（DMV）を導入してはいかがでしょうか。DMVを関東鉄道竜ヶ崎線に組み入れることで、公共交通の利便性向上と移動の円滑化が図れるものと考えますがいかがでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>デュアルモードビークル（DMV）は、線路と道路の両方を走行可能な新たな交通機関。国内では徳島県と高知県に跨る阿佐海岸鉄道(株)で運行されている。</p> </div>	<p>第3章：目標別構想の目標5【誰もが快適に移動できる都市づくり】において、方針として、①公共交通の利便性の向上と②持続可能な地域公共交通の形成を掲げております。そのうえで、個別・具体的な施策等につきましては、関連計画となります「龍ヶ崎市地域公共交通計画」の評価や「龍ヶ崎市地域公共交通協議会」等の場において議論されるものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。</p>
4	2	<p>【3 ページ】</p> <p>位置付けについて</p> <p>都市計画の決定・変更に対し、広報はされている。しかし主に事業者向けであるが、地区市民に対し容易に見えるように努力少ないと考える。また、県からの計画的な内容が市との一致性が読めないことがある。</p>	<p>市公式ホームページ上で「都市計画・まちづくり」のコンテンツが「トップページ」から続く「事業者の方へ」に掲載されていることに関してのご指摘と存じます。「都市計画・まちづくり」のコンテンツに関しては、市民ならびに事業者の方への周知が必要な項目と考えており、市公式ホームページ上でどの場所に表示させるのが、市民向けの周知として適切であるのかを検討してまいります。</p> <p>本プランにおける茨城県との調整でございますが、素案の段階で、茨城県5部18課等及び竜ヶ崎工事事務所と協議を実施しており、茨城県の各種計画や事業との整合を図っております。</p>
5		<p>【4 ページ】</p> <p>“最上位計画の策定状況や、社会経済情勢の変化などを踏まえ、” 言い分が不理解。社会経済情勢の変化の方が優位である。最上位計画の策定も建てられないし、本計画も建てられない。最上位計画の策定の指示で動くべきではなく、方向性を失わないようサポート対応は必要！！</p>	<p>現在の最上位計画は前期4年、後期4年の8年計画となっており、次期最上位計画については、同様に8年計画になるものとして、本計画の目標年次を定めています。最上位計画と社会経済情勢の変化の順番ですが、上記のとおり、最上位計画については、期間が定まっているものであり、社会経済情勢の変化についてはいつどのような変化が起こるかわからないものであることから、このような順番とさせていただきます。また、都市計画マスタープランは、中長期的な計画であることから、第5</p>

		章：都市計画マスタープランの実現に向けて【5. 進行管理と見直し】において「社会経済情勢の変化などにより必要と判断された場合には、随時、見直しを行う」こととしております。
6	【4 ページ】 本プランの期間（青ライン）は表の通りだが、〔前・後〕基本計画はどう解釈とればいいのか？別な計画が存在するという見方になってしまいます。さらに必要に応じてとなりますが、15年を見据えたと計画の通りになってしまいますので、上記意見に沿って点検はしないといけないと考えますがいかがでしょうか？	前期基本計画、後期基本計画の横線は、最上位計画の欄に記載すべきものですので修正します。 進行管理と見直しについては、第5章：都市計画マスタープランの実現に向けて【5. 進行管理と見直し】において、毎年度の点検はアクションプランとその事業評価等にゆだねるものとし、都市計画マスタープランとしての事業評価と見直しの検討は、中間年度に実施することを基本としております。
7	【11 ページ】 令和7年度概況を加えてもよいのではないかと？計画は7年度から開始となるから、同時に施設開設の文言を加えてもよいと思う。	計画期間が令和7年度からとなりますことから、令和6年度までの記載としております。
8	【30 ページ】 先の説明会において、結局重点的の説明が足りないと思った。市民に5個の目標を問うことも必要であった。	11月2日に実施した、市民説明会のことと存じます。説明会では、5つの分野別の目標について説明を行うとともに、それらを落とし込んだ地域別の構想についても説明を行っております。また、説明会の前後に募集を行った素案に対する意見募集においても、5つの設定目標について、ご意見はございませんでした。このため、素案のとおり、 【目標1】すべての人にやさしい住まいと地域がある都市づくり（住宅地の分野） 【目標2】災害に強くしなやかな都市づくり（防災の分野） 【目標3】地域資源を活かしたにぎわいと多様な働く場がある都市づくり（にぎわい・産業の分野） 【目標4】水と緑・歴史に囲まれて生活できる都市づくり（水・緑・歴史の分野） 【目標5】誰もが快適に移動できる都市づくり（道路・交通の分野） とし、都市計画の観点から、都市づくり・まちづくりについて、記載しております。
9	【43 ページ】 「安全・安心なまちづくりの推進」で、安全確保において、具体例で申すと、幹線道路県道5号線や流大、竜一高下、警察脇の南北路は近年、車両通行数及び車種の多種が見えてきている。市通過車両においては迂回ルートの案が都市計画的に反映ないと思っている。今後の方向性を示さないと思うが。	道路ネットワーク整備に関しては、第5章：誰もが快適に移動できる都市づくり(3)方針、⑤道路ネットワークの整備 において、広域道路網及び都市計画道路の整備進捗、周辺自治体の幹線道路の位置付けや整備状況等を踏まえながら、新たな道路交通網等の検討を進めるとしております。また、検討にあたっては、安全対策についても、十分考慮する必要がありますので、頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
10	【46 ページ】 狭隘道路の解消を促進について、迂回ルートの案と共でないといけないと考えますが。	狭隘道路の解消については、昔からある市街地の住宅が密集しているエリアの問題と捉えており、既にある道路の幅員を確保する事業となることから、第3章：目標別構想の目標2【災害に強くしなやかな都市づくり】(3)方針 ①災害による被害の軽減 の観点から提案しています。
11	【49 ページ】 「安全性向上のための JR 龍ヶ崎市駅東口駅前広場の改修など」について駅ロータリーの改修以外になにか事業はあるのでしょうか？	JR 龍ヶ崎市駅を中心とした市街地の魅力向上についてのご指摘と存じます。具体的には、73 ページ 地域別構想、西部地域、(2)まちづくりの方針、③分野別の方針、c. にぎわい・産業に記載しております。JR 龍ヶ崎市駅東口駅前広場の安全性向上のための改修のほか、周辺区域を含めて歩行者にやさしい街並みの形成を進めるとしてしております。
12	【49 ページ】 JR 龍ヶ崎市駅周辺の新たな土地利用で、牛久沼の土地活用は白紙となりました。牛久沼の土地は基礎整備が必要になり、さらに国道6号線の合流帯における渋滞が懸念されます。これらを踏まえて要望していく必要があります。また、県道5号線も直接国道接続が考えてく方向もあってもよいと。	国道6号の渋滞緩和につきましては、国事業による藤代バイパスの整備により、以前に比べ、渋滞は緩和されたものと考えております。しかしながら、近隣市町村において大規模な開発事業等が予定されていることから、今後、さらなる渋滞の発生が予想されます。このため、国道6号藤代バイパス4車線化の整備促進につきまして、取手市とともに国への要望を実施しております。 また、茨城県道5号竜ヶ崎潮来線の国道6号への直接接続につきましては、周辺道路の渋滞状況を注視しつつ、必要に応じて茨城県に対し要望を行ってまいります。

13		<p>【52, 53 ページ】</p> <p>アダプト・プログラムでの事例だが市街の自治会・町内会が協働でない団体もある。市街の自治会・町内会は自分の地域の範囲がわかっていない人もいる。例えば水路付近の除草作業など考えもない。住民から言われた箇所はしているのは現実。現場施設の担当課は悩みだねと思う。里親活動の活性化に努めるべきとないか？</p>	<p>アダプト・プログラム（公共施設里親制度）は身近な公園や道路、水路などを地域住民の方々が「里親」となり、定期的に清掃や除草などのボランティア活動を行っていただく任意の制度です。ご指摘のとおり、制度活用の活性化に努めるべきと考えており、第3章：目標別構想の目標4【水と緑・歴史に囲まれて生活できる都市づくり】(3)方針 ③協働 においてアダプト・プログラムの周知・活性化に努める旨、記載しております。</p>
14		<p>【56 ページ】</p> <p>道路ネットワークの整備で、長期間未整備となっている都市計画道路等については、地域の実情や必要性に応じて、計画案の見直しを検討します。</p> <p>広域幹線道路を補完し、～地域の実情を踏まえながら、道路交通の円滑化、防災性の向上等に向けて適切な維持・管理を行います。</p> <p>各文言で安全性についての示しはしないのでしょうか。</p>	<p>こちらの項目については、道路ネットワークの整備ということで、道路網全体の話となります。安全性につきましては、次の項目⑥都市基盤や道路施設等の維持管理の項目に記載しております。</p>
15	3	<p>【23 ページ】</p> <p>SDGsの取り組みをより実現可能なものにするべくウェルビーイング（幸福・充実感）の概念の理解と実践を深めていくことを付け加えていただけたらと思います。</p> <p>ウェルビーイングの4因子①やってみよう②ありがとう③なんとかなる④ありのままにをまちづくりに取り入れることで、子どもから高齢者まで、あらゆる人々が自分らしく、より良い人生を送れる都市になると考えます。</p>	<p>ウェルビーイングにつきましては、一般に「幸福感」を示す概念として広く使われるようになってきているものと認識しています。本市におきましても継続される日常の中で、市民の皆さんが幸福感を感じ「住みたい」「住み続けたい」まちとなるよう取り組んでいるところです。一方で、都市計画マスタープランは、土地利用構想や都市施設の配置など、都市づくりに主眼を置いた計画であることから、ウェルビーイングの概念の普及・啓発等の取組については、なじみにくいものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては、その他計画策定の際に、参考とさせていただきます。</p>
16	4	<p>【45～47 ページ】</p> <p>・小貝川及び牛久沼周辺の地盤沈下による水害対策の問題</p> <p>2. 災害に強くしなやかな都市づくりに関連して、仮称：龍ヶ崎市未来調査研究探求センターを設置し、過去から現在までの地盤沈下の統計データや小貝川等の氾濫の歴史を提示し、子供から大人まで、外部から移住された方も含めて、問題意識を共通認識として啓発を行ってはいかがでしょうか。</p>	<p>本市で発生した水害の歴史を後世に語りつないで行くことは、防災・減災教育といった側面からも、大変重要なことであると考えています。本プランにおいては、第3章：目標別構想の目標2【災害に強くしなやかな都市づくり】において、現状と課題、方針などを示させていただいております。頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
17		<p>【51～53 ページ】</p> <p>・牛久沼の水質管理の問題</p> <p>4. 水と緑・歴史に囲まれて生活できる都市づくりに関連して、牛久沼の過去から現在までの水質の変化データの蓄積と提示を行ってはどうですか。(BOD, COD, PFAS) 根本的な対策案を提示して、改善の計画と期限を付けてください。</p>	<p>牛久沼につきましては、昔から本市周辺の水田耕作において、水の供給源として重要な役割を果たすとともに、その風光明媚な自然環境は、市民の憩いの場所として親しまれてきました。このため、本プランにおきましても、保全に努めるとともに、牛久沼の持つポテンシャルを高め、周辺地域の魅力向上と交流人口の拡充や地域経済の活性化の促進を掲げております。そのうえで、牛久沼の水質浄化につきましては、茨城県の牛久沼水質保全の対応方針や本市も一員となっております、牛久沼流域水質浄化対策協議会等において水質浄化に関する取り組みや議論がなされるものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>BOD：生物化学的酸素要求量、COD：化学的酸素要求量、いずれも水質汚濁を表す指標の一つ PFAS：有機フッ素化合物、近年、動脈硬化や発がんリスクの上昇に影響があるのではないかと注目されている</p>		<p>【51～53 ページ】</p> <p>・地球温暖化に係る農業の問題</p> <p>4. 水と緑・歴史に囲まれて生活できる都市づくりに関連して、田んぼの稲から地球温暖化係数が大きいメタン（CH4）が発生しています。このメタンの発生量のデータ集積を市民に提示してください。また、農業研究所等の研究を注視し、抑制方法やアイデア開発を行ってください。</p>	<p>稲作につきましては、昔から本市の重要な基幹産業であり、本プランにおきましても、農地の保全と荒廃農地の発生抑制を掲げております。ご指摘いただきました、温室効果ガスの削減につきましても、地球温暖化防止の観点から、重要な取り組みであると認識しております。このため、農林水産省をはじめとする関係機関では、農地土壌から排出されるメタン削減に向けた取り組みが推奨されるとともに、新たな技術開発も進められています。一方で、都市計画マスタープランは、土地利用構想や都市施設の配置など、都市づくりに主眼を置いた計画であることから、農地土壌から発生されるメタンガスの削減についての記載はなじまないものと考えております。今後も、国等の動向を注視しつ</p>

			つ、必要に応じ市としての対策を検討してまいります。
19		<p>【45～47 ページ】</p> <p>・竜巻発生による被害の問題</p> <p>10年前に龍ヶ崎市では竜巻が発生し被害がでました。関東平野は竜巻が多く発生する場所です。竜巻の発生を抑制する対策が必要ではないでしょうか。</p>	<p>自然現象である竜巻の発生を制御することは困難であると考えております。このため市では、龍ヶ崎市地域防災計画（一般災害等対策計画編）、Ⅱ.風水害等対策計画、第3節竜巻災害防止計画において、市民の安全確保のため、竜巻に関する情報の入手方法や情報伝達方法、予防対策について記載しております。</p>
20		<p>【36～37 ページ】</p> <p>・市街化地区縁辺部の調査を行い、これを工場誘致帯に活用する計画</p> <p>全体面積や、工場誘致の件数と効果がわかりません。さらに土地所有者との交渉が全てうまくいくかもわかりません。この見通しを早期に構築する必要があると思います。</p>	<p>市街地縁辺部ゾーンは、市街化区域での適地の有無や都市基盤の整備状況、周辺の土地利用状況等を踏まえながら、地域の活性化や市街地ゾーンの都市機能の補完等に有効な場合には都市計画制度等を活用し、制度等に沿った土地利用を可能とする区域としております。このため、民間事業者等の進出意向等があった際には個別に対応してまいります。</p>
21	5	<p>【43 ページ】</p> <p>④公共施設再編成の推進</p> <p>本方針に対して賛同いたします。そのうえで、以下の方針を追記することをご提案いたします。</p> <p>1つ目の◆において、市民ニーズの減少や老朽化した施設の統廃合等を計画的に行い、公共施設の多機能化・複合化による集約と全体最適化を推進するとともに、施設更新の際にはユニバーサルデザインの導入や防災機能の強化（エネルギー源の多重化を含む）など、質的向上と必要に応じた機能の充実を図ります。</p>	<p>防災・減災対策において、エネルギー源の多重化によるリスク分散を行うことは、適切なライフラインを確保する上で重要なことであると認識しております。公共施設の再編につきましては、第3章：目標別構想の目標1【すべての人にやさしい住まいと地域がある都市づくり】(3)方針 ④公共施設の再編 に記載しておりますが、具体的な取り組みにつきましては、「龍ヶ崎市公共施設等総合管理計画」において議論されるべきものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
22		<p>【47 ページ】</p> <p>③避難場所や防災拠点の整備</p> <p>本方針に対して賛同いたします。そのうえで、以下の方針を追記することをご提案いたします。</p> <p>2つ目の◆において、避難場所や防災拠点については、時代の変化に合わせた防災関連機材（BCP対応などを含む）の整備・拡充に努めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">BCP (Business Continuity Planning) 事業継続計画</div>	<p>災害が巨大化・激甚化し、一度大規模災害が発生した場合、避難が長期化することが危惧されています。本プランでは、第3章：目標別構想の目標2【災害に強くしなやかな都市づくり】(3)方針 ③避難場所や防災拠点の整備に記載しておりますが、個別・具体の災害対策につきましては、龍ヶ崎市地域防災計画等において議論されるべきものと考えています。このため、頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
23		<p>【50 ページ】</p> <p>3. 地域資源を活かしたにぎわいと多様な働く場がある都市づくりにおいて、①～⑤まで方針が掲げられていますが、⑥として以下の方針を追記することをご提案いたします。</p> <p>⑥ 脱炭素まちづくりとして環境に配慮したエネルギーの利用促進（多様な分散型エネルギーの導入と利用促進）</p>	<p>脱炭素社会の実現に向けて、省エネ化や再生可能エネルギー及び自立・分散型エネルギーの導入を促進することは、地球温暖化防止のみならず、地域のレジリエンス向上にも寄与するものと認識しております。また、一団の街区や工業団地等において、スマートエネルギーセンターの立地による高効率で効果的なエネルギーの供給は、脱炭素社会のモデル事業となり、大変魅力的なものと感じております。エネルギー利用の促進につきましては、今後、改定を予定しております「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の中で検討されるものと考えております。このため、頂いたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>